

## 群馬交響楽団演奏会

8月30日（日） 19：00 開演 群馬音楽センター

全席指定 S席2,000円/A席1,500円/B席1,000円/学生500円（B席のみ）

プログラム

吉松隆／サイバーバード協奏曲 他

ゲスト 須川展也（サクソフォン）

### 群馬交響楽団 Gunma Symphony Orchestra

1945年、戦後の荒廃の中、文化を通じた復興を目指して「高崎市民オーケストラ」が創設され、翌年「群馬フィルハーモニーオーケストラ」、1963年には「財団法人群馬交響楽団」と改称し現在に至る。



1955年、「群響」をモデルに制作された映画「ここに泉あり」が公開されると群響は全国的に注目を集め、翌年には群馬県が文部省から全国初の「音楽モデル県」に指定された。1947年5月から始めた移動音楽教室では、2007年度までに延べ590万人以上の児童・生徒が鑑賞しているのをはじめ、県内各地で演奏活動を展開し、群馬県の文化の象徴として県民から幅広く支持されている。

1994年には「プラハの春国際音楽祭」、「ウィーン芸術週間」から同時に招待を受け、音楽監督高関健指揮のもと欧州4カ国を巡る海外公演を実現した。翌年には50周年記念委嘱作品「オーケストラのための遠景Ⅱ」（細川俊夫作曲）を東京・群馬で初演し、高い評価を得た。

2003年10月にはNHKテレビ番組「プロジェクトX～挑戦者たち～」で楽団の草創期が紹介され、話題となった。また、2004年11月には天皇皇后両陛下、デンマーク国女王陛下同王配殿下をお迎えしての移動音楽教室を開催した。今後も、定期演奏会、移動音楽教室はもとより幅広い活動を通じた音楽文化の発展への更なる貢献が期待されている。

## 末廣 誠（指揮）

**Makoto Suehiro, conductor**

鹿児島県生まれ。鹿児島大学卒業及び桐朋学園大学修了。指揮を秋山和慶、堤俊作、H.レーグナー各氏に師事。1981年、鹿児島オペラ協会10周年記念公演において、石井敏作曲オペラ『カントミ』の初演を指揮、1987年銀座にオープンした銀座セゾン劇場の柿落としにおいて、M. コンスタン作曲、P. ブルック演出の『カルメンの悲劇』を50日間に渡り指揮し、世界各国から招かれた歌手や、コンスタン氏自身より絶賛される。1989年、東京青山劇場においてR. コルサコフ作曲オペラ『サルタン王の物語』日本初演の訳詞及び指揮を担当し、高い評価を受ける。以後各地のオペラ公演を多く手がけ、数多い作品のレパートリーを誇っている。またバレエ公演も手がけ日本初演した作品も多く、舞台作品における技量は各界から厚い信頼を得ている。



1990年ハンガリー・ニーレージュハーザ市においてサボルチ交響楽団を指揮、同年旧東ドイツ・ワイマール市で開催された国際セミナーに参加。H. レーグナー氏のもとで研鑽を積み、最終コンサートにおいてイェナー・フィルハーモニー管弦楽団を指揮、チューリンガー・アルゲマイネ紙に“真にプロフェッショナルな指揮者”と絶賛される。1991年、ポーランド・カトヴィツェ市で開催された第4回フィッテルベルク国際指揮者コンクールにおいて優勝、第1位ゴールドメダルとオーケストラ特別賞を併せて受賞する。翌年より、ポーランド国立放送交響楽団をはじめとする各地のオーケストラに招かれ、クラコフ放送交響楽団の首席客演指揮者に就任。また国立シレジア歌劇場において『トスカ』を指揮してヨーロッパにおけるオペラデビューを果たし、以後定期客演指揮者

として多くの作品を指揮し、常に高い評価を得ている。1999年、ジャズピアノの巨匠チック・コリア氏と共演、同氏より絶大な信頼を寄せられる。

帰国後、群馬交響楽団指揮者を経て、1995年から1999年まで札幌交響楽団指揮者を務め、以後多岐に渡る活動を続けている。高いレベルの演奏を引き出す着実な手腕は、常に信頼と評価を得ており、今後の活動が期待されている。また、曲目解説等の執筆活動も盛んに行っており、その軽妙な切り口の文章は評判を得る一方、演奏会の司会、企画等にもその才能は遺憾なく発揮されている。2007年12月、レッスンの友社よりエッセー「マエストロ・ペンのお茶にしませんか？」を刊行。東邦音楽大学特任准教授を務める。

## 須川展也 【サクソフォン】

東京藝術大学卒業。第51回日本音楽コンクール管楽器部門1位なしの2位、第1回日本管打楽器コンクール・サクソフォン部門において第1位を得てデビュー。94年村松賞、出光音楽賞受賞。98年JTのCMに出演し人気を得る。メディアに多数出演し、02年4月よりNHK連続テレビ小説『さくら』のテーマ音楽も演奏。

年間公演数は約100。海外でも精力的に活動しフランス、イギリス、ドイツ、アメリカ、カナダ、中国、韓国等多くの国で演奏している。03年ウィーン・ムジークフェラインでのリサイタルが大成功をおさめる。

CDリリースは30枚近くに及び08年、avex-CLASSICSと英・CHANDOSよりオーケストラとの共演によるソロ・アルバムをリリース。09年5月27日、avex-CLASSICSより自身がコンサートマスターを務める東京佼成ウインドオーケストラとの共演で最新アルバム「ヴィルトゥオーゾ・コンチェルト」をリリース。好評を得ている。

サクソフォン四重奏団「トルヴェール・クワルテット」のメンバー、ヤマハ吹奏楽団常任指揮者。

近年作曲家への委嘱も積極的に行い、吉松隆、西村朗、本多俊之、E.グレッ



グソン、真島俊夫、M. エレビー各氏等に依頼、サクソフォン音楽の発展に力を注いでいる。

クラシック・サクソフォンの可能性を追求し自由なスタンスで活動、サクソフォンを学ぶ若者たちの憧れの存在となっている。